

事業所名 児童発達支援室「麒麟児」

## 支援プログラム

作成日

2025 年

1 月

15 日

法人（事業所）理念		子どもの健康な育ちの保障						
支援方針		生まれながら障害を持つ子どもに対するスムーズな医療介入の支援とその後の子どもの精神・身体の発達の支援や家族の生活の支援						
営業時間		9 時	0 分から	16 時	45 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	体温・心拍数・呼吸数のバイタルと酸素飽和度を定期的に測定して、体調の安定を図ります。そして心臓や消化管等の疾患に対する外科的介入やその後の回復が順調に経過し、日常生活に戻れるように支援します。痙攣の際は酸素投与や抗痙攣剤での対応、気管チューブや胃瘻チューブの事故抜管の際は、再挿入等で速やかに対応します。						
	運動・感覚	医療的なケアを要するとしても、ある程度生活状態が安定するまでの期間において、当施設でできることはいたします。運動発達支援に関しては、身体の評価に応じて対応します。たとえば脳性麻痺の場合は大学病院と連携して肢体機能訓練をします。感覚については併設施設のクリニックの眼科で評価します。						
	認知・行動	ある程度の体力がついて日常生活が安定してくるようになると、医療的ケアにおける重症度や感染症に対する危険度も低下していきます。そのような段階になったら動き回れるような大きな施設がよいと思います。その際は十分な申し送りをして適切な施設への紹介をします。それまでの間、知的発達や認知能力について、該当児の発達を最大に発揮できるようにその特性に応じた適切な支援をします。						
	言語コミュニケーション	医療的なケアを要する基礎疾患にもよりますが、そのような生活のハンディキャップがあっても、子どもの特性や能力を最大限に発揮できるように言語やコミュニケーション能力の発達を支援します。当施設の後の施設での支援に繋がるように、次の施設との連携をしていきます。						
	人間関係社会性	2歳未満の子にとって、まだ社会性の発達は未完成と言えます。しかしその年齢は愛着形成に大切な時期とされています。特に生まれながらの障害によっては、医療介入（長期間のNICU入院や外科手術、経口哺乳の困難、保護者からの分離）が、子どもの愛着形成を妨げかねない状況が生じます。したがって当施設は、親子ともに健全な愛着形成が育まれるような配慮をもって支援いたします。						
家族支援		兄弟の保育所のイベント、学校の行事に際は、事前に申し出があれば、土曜日も預かることはできます。		移行支援		2歳になって、医療的ケアの重症度、気道感染のリスクに応じて適切な児童発達支援事業所あるいは、地域の保育所やこども園への移行を進めていきます。		
地域支援・地域連携		大学病院や弘前総合医療センターと医学的な連携 移行後も地域の児童発達事業所や保育所・こども園との連携をし、たとえば体調が悪い時は、当方で預かり、よくなったら戻すことも考慮します。		職員の質の向上		県立中央病院成育課開催の医療的ケア児の勉強会の参加 また施設長は県の医療的ケア児コーディネーターも兼ねているので、移行時はスタッフといっしょに施設をまわり、他施設の情報を取ります		
主な行事等		特にありません						